

第2章 みどり市における公共交通の課題



2-1 みどり市地域公共交通の課題（テーマ）の整理

既存データ、アンケート調査結果、事業者ヒアリング結果、近年の社会情勢などを踏まえ、本市における公共交通に関する問題点を整理し、「利用者」「持続可能性（公共交通のあり方）」の視点から課題（テーマ）を設定しました。

利用者

テーマ 1 視点：市民
多様な公共交通を活用した目的に応じて柔軟に利用できる公共交通の構築

テーマ 2 視点：高校生
市内・市外への通学に対応した駅・学校への交通手段の確保

テーマ 3 視点：高齢者
高齢者の買い物・通院ニーズに対応した公共交通の再編

テーマ 4 視点：観光客
鉄道を軸とした観光振興に資する公共交通の構築

テーマ 5 視点：安心・安全 / 魅力向上・発信 / 収入確保
市民・観光客が「利用したくなる」公共交通サービスの提供

テーマ 6 視点：意識醸成 / 連携強化
地域・多様な公共交通が一体となった連携体制の強化

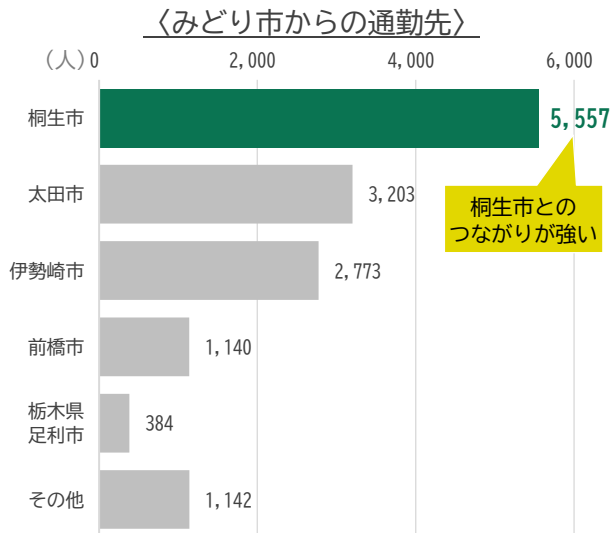
テーマ 7 視点：最適化 / 支出抑制 / DX・新技術
笠懸・大間々・東それぞれの地域特性に応じた公共交通システムの構築

持続可能性（公共交通のあり方）

多様な公共交通を活用した目的に応じて柔軟に利用できる公共交通の構築

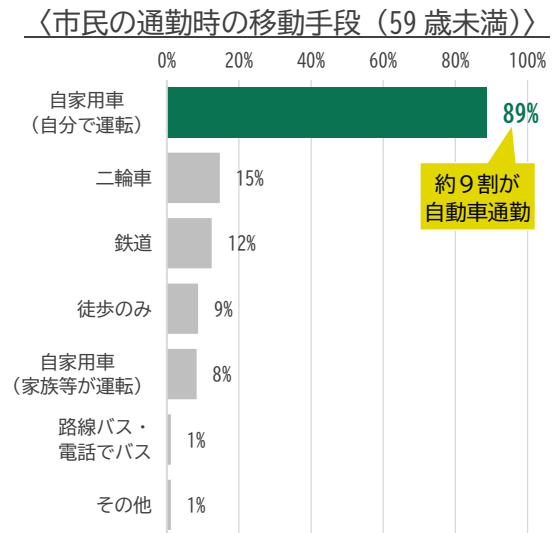
・ 市民の通勤を含め、幅広い年代で自動車利用が多く、特にみどり市北部では「自分で運転する」ため公共交通を利用しない傾向が強く、利便性の高い公共交通が提供できていない。

● 市民の通勤の状況



資料：令和2年国勢調査

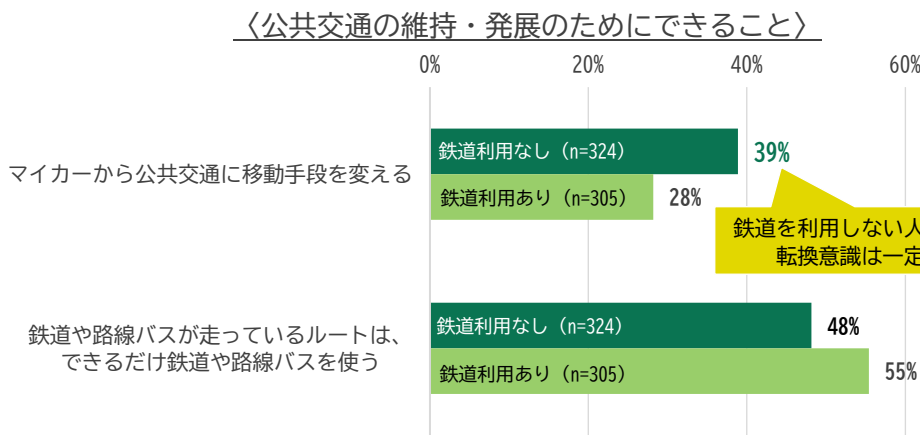
● 自動車通勤率の高さ



資料：一般アンケート調査結果 (複数回答)

・ マイカーから公共交通への転換意識は高いものの、実際に公共交通を利用している人は少ない状況となっている。

● マイカーから公共交通への転換意識は一定数ある



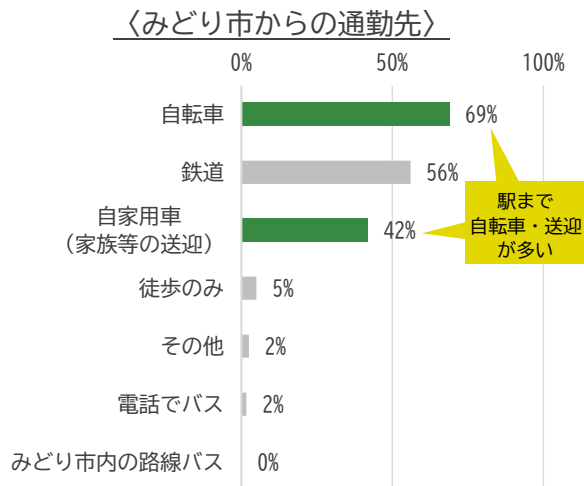
資料：一般アンケート調査結果

※「鉄道利用あり」は、「週に5日以上利用～年に数回程度利用」と回答した人を対象としている

市内・市外への通学に対応した駅・学校への交通手段の確保

- ・ 市外へ通学する生徒は路線バスを利用できておらず、駅へのアクセス手段として自転車や保護者の送迎に頼らざるを得ない状況であり、交通事故のリスクや交通渋滞が発生、保護者への負担の増加が懸念される。
- ・ 高校生が多く住む笠懸町の南西地域では、路線バスが整備されておらず、駅までの手段が限られている。

● 駅・学校までは自転車・送迎で移動



● 路線バス・駅整備の必要性

〈高校生の声 (抜粋)〉

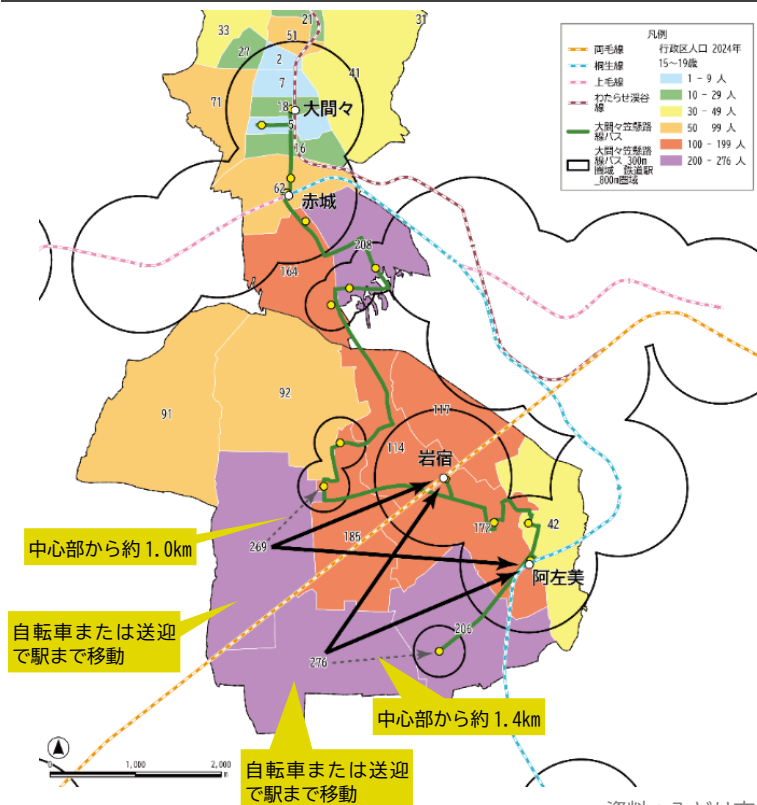
- ・ 市役所から岩宿駅までのバスを通学に利用したいが、通学時間帯には運行しておらず、不便を感じている。
- ・ 自宅近くにバス停がなく、便数も少ないため利用したい時間に運行していない。高校生が通学に利用しやすいよう、バス停の増設と運行時間の改善を求める。
- ・ 岩宿駅への登校時に自転車を利用しているが、車で送迎する保護者の車両と接触する可能性があり、危険を感じているため、状況の改善を求める。

資料：高校生アンケート調査結果（自由意見）

資料：高校生アンケート調査

● 笠懸町の南西地域の高校生の通学手段は駅までの移動を自転車か送迎に依存

〈鉄道駅から 800m、大間々・笠懸路線バス停から 300m の範囲〉



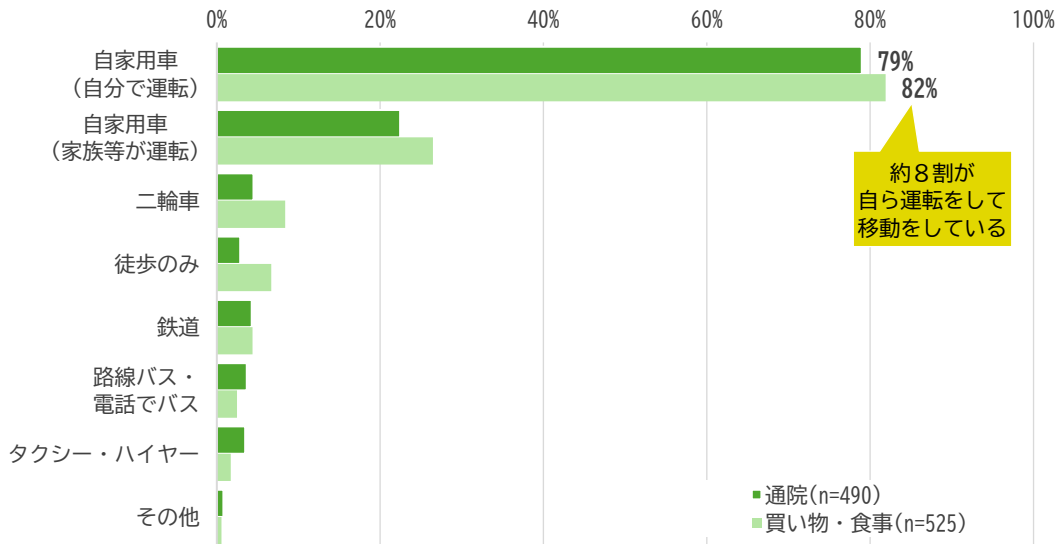
資料：みどり市、高校生アンケート調査結果

高齢者の買い物・通院ニーズに対応した公共交通の再編

- ・ 商業施設や医療施設への移動需要は高いものの、鉄道や路線バスの利用は進んでおらず、利便性の高いサービスが提供できていない。

●自動車利用率の高さ

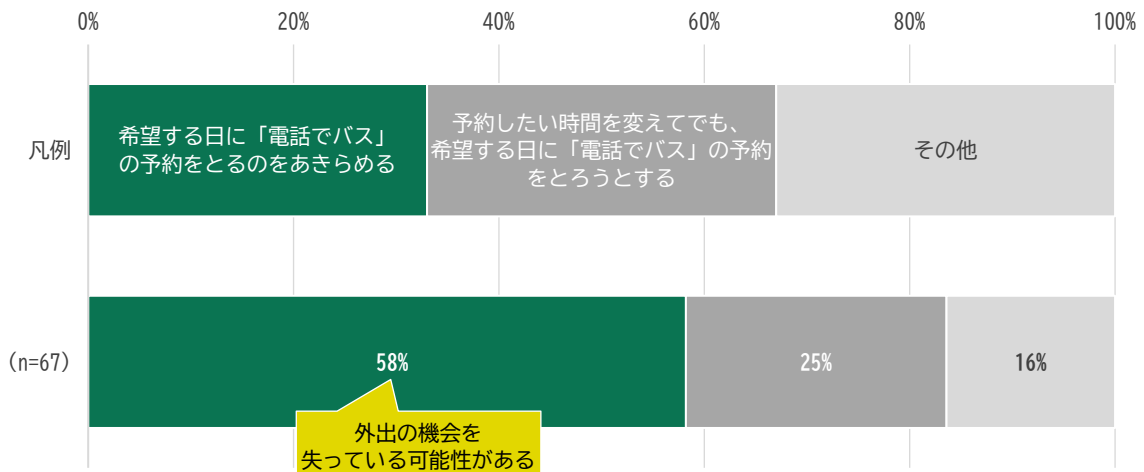
〈市民の通院、買い物・食事時の移動手段（60歳以上）〉



- ・ 笠懸町・大間々町では、「電話でバス」が運行しているが、予約が取りづらい状況が続いており、本来必要としている人が予約を取れずに諦めてしまい、結果として外出の機会を失っていると考えられる。

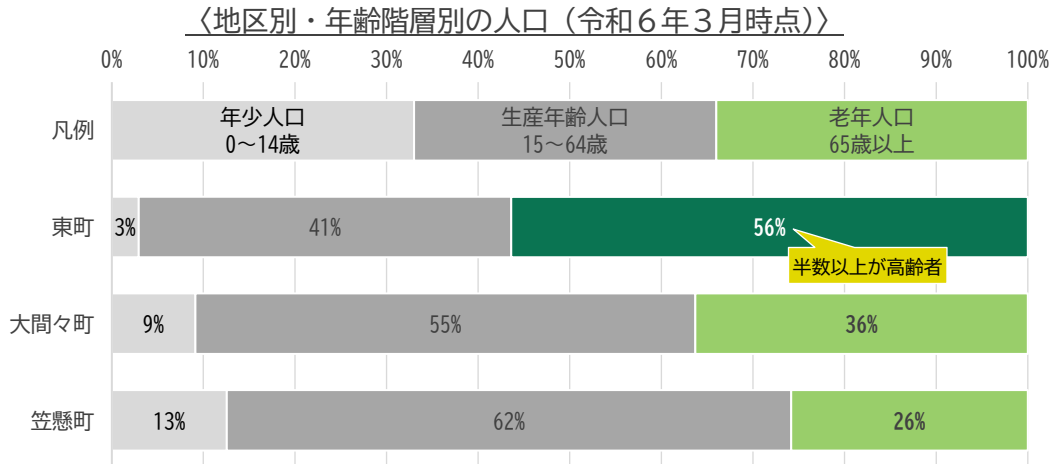
●予約が取れないときに利用をあきらめる傾向

〈「電話でバス」の予約が取れないときの対応〉



- ・ 少子高齢化が特に進行している東町では、NPO による移動サービスに対するニーズが一層高まることが予想される一方で、運転手不足により持続可能な運行が困難になる懸念がある。

●東町の高齢化率の高さ



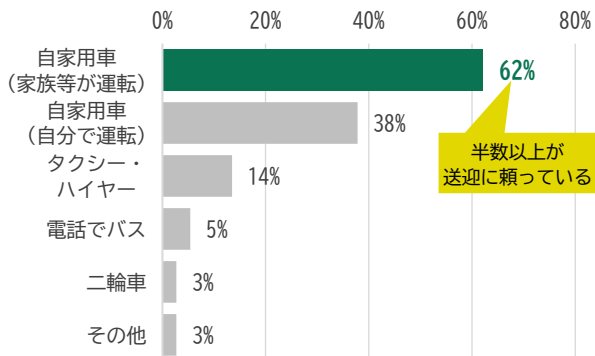
資料：みどり市

- ・ 駅やバス停までの徒歩移動が困難な高齢者は、自家用車に依存する傾向が強く、公共交通の利用につながっていない。

●バス停までの移動が困難

〈バス停まで“ほとんど歩けない”〉

60歳以上の移動手段（通院）



資料：市民アンケート調査結果（60歳以上）

※本調査では、路線バス利用者は0人であった

〈高齢者の声（抜粋）〉

- ・ 停留所へ行くまで大変。
- ・ 自宅での乗り降りが可能にならないか。
- ・ 「電話でバス」を利用してみたいが、バス停が遠すぎる。
- ・ バス停まで300m~400mも歩くのは大変。
- ・ バス停まで自宅から約1kmあり、移動が大変だと感じている。

資料：市民アンケート結果（60歳以上）

- ・ 現在、公共交通を利用していない市民であっても、免許返納後の生活に対する不安を抱えている。

●免許返納後の不安

〈市民の声（抜粋）〉

- ・ 現在は車を運転できるためバスの利用に困っていないが、将来的に免許を返納した際には、買い物・通院・駅への移動手段としてバスが使えると非常に助かると感じている。
- ・ 現在は自家用車で移動できるため不便は感じていないが、将来的に免許証を返納した場合、交通手段が限られ不便になることが予想される。
- ・ 現在は免許と車があるため不便は感じていないが、将来的に高齢になって公共交通を利用する機会が増えることを考えると、利便性の高い交通環境を期待している。
- ・ 将来的に自分も免許を返納する可能性があり、その際はバスを利用することになると思う。公共交通は多くの人が利用しないと維持できないことを改めて実感した。

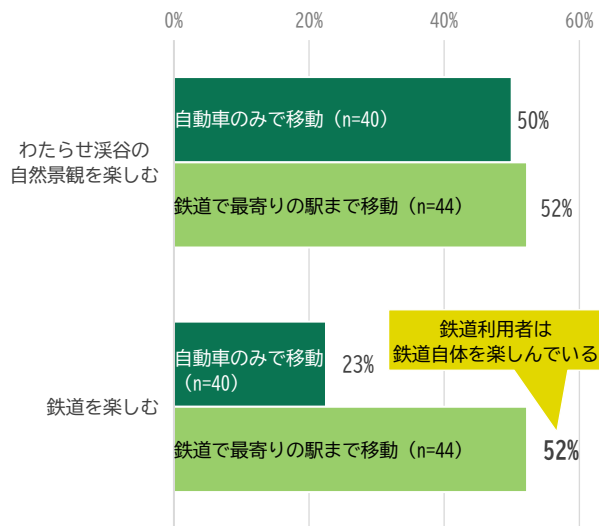
資料：一般アンケート調査結果（自由意見）

鉄道を軸とした観光振興に資する公共交通の構築

- 「自然景観」「鉄道」を目当てに訪れる来訪者が多く見られるが、遠方からの来訪者は鉄道を利用するケースが多い一方で、近距離からの来訪者は自家用車を利用する傾向が強く、利便性の高い公共交通が提供できていない。

●「自然景観」「鉄道」を目当てに訪れる

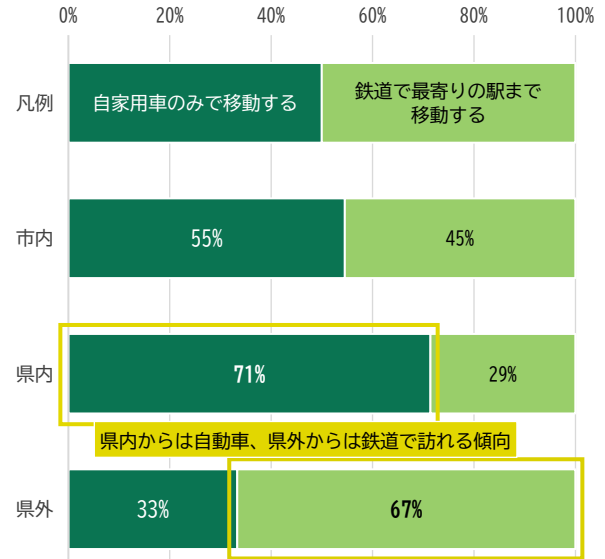
〈みどり市を訪れる理由〉



資料：来訪者アンケート調査結果

●遠方からは鉄道、近隣からは自動車で来訪

〈出発地からみどり市を訪れる手段〉

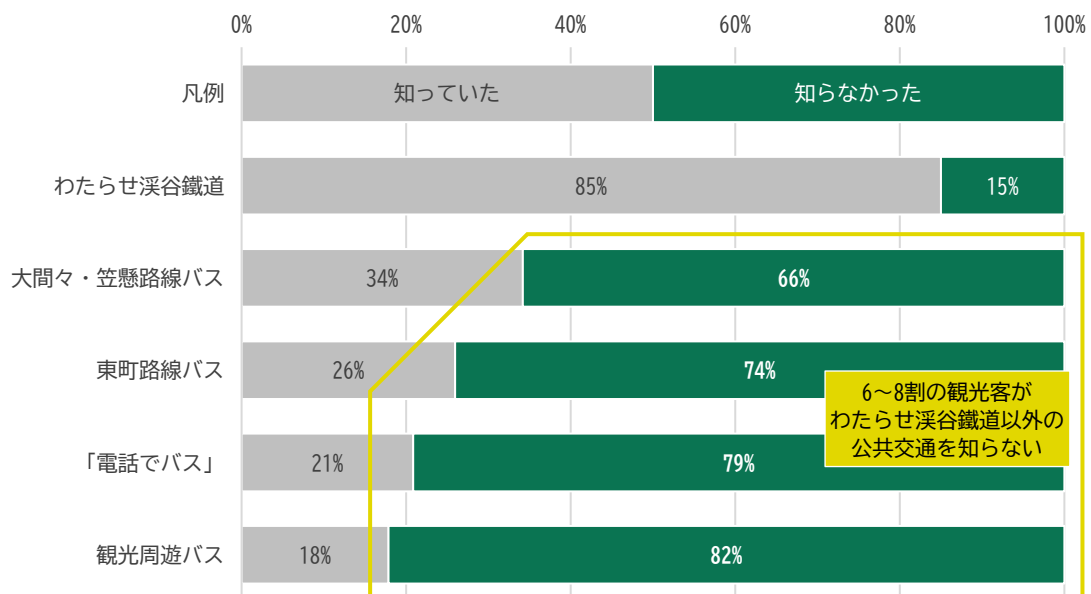


資料：来訪者アンケート調査結果

- 「自然景観・鉄道」を目当てに訪れる来訪者が多く見られるが、みどり市の公共交通が十分に周知されておらず、みどり市の景観や鉄道のポテンシャルを最大限に活かしてきていない。

●わたらせ渓谷鉄道以外を知らない観光客

〈みどり市の公共交通を知っているか〉

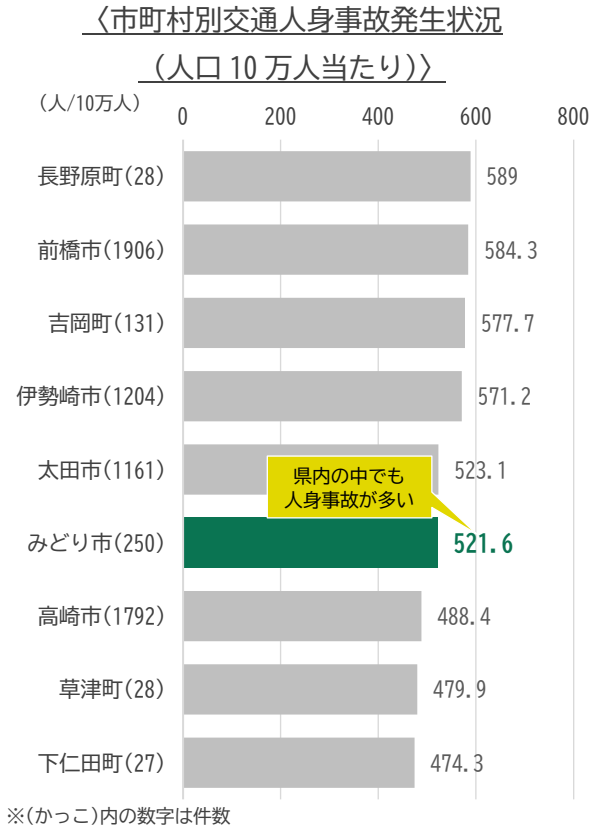


資料：来訪者アンケート調査

市民・観光客が「利用したくなる」公共交通サービスの提供

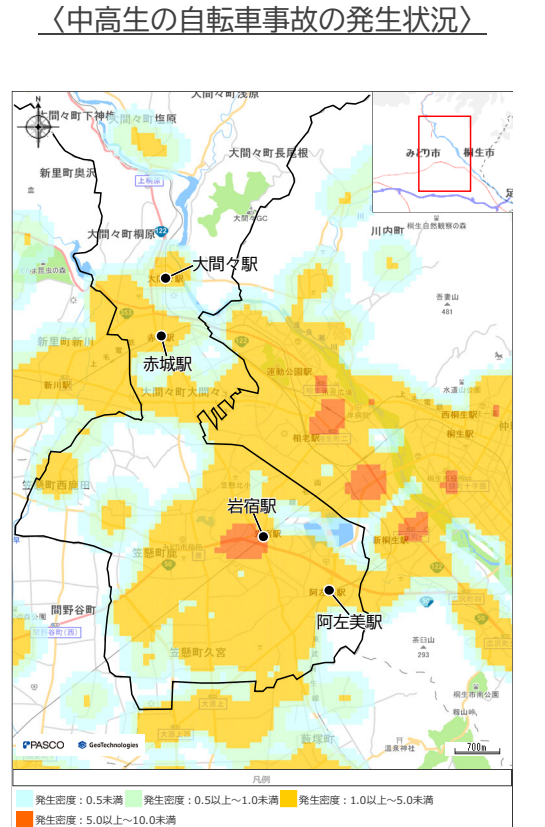
- ・ 人口 10 万人当たりの人身交通事故発生状況は、県内ワースト 6 位に位置し、近隣の伊勢崎市や太田市を含め、人身事故の発生率が高い傾向が見られる。
- ・ 中高生の自転車事故は岩宿駅周辺で発生率が高く、今後も自転車事故の発生が懸念される。

● 県内ワースト 6 位の事故の多さ



資料：群馬県警察 HP (令和 6 年)

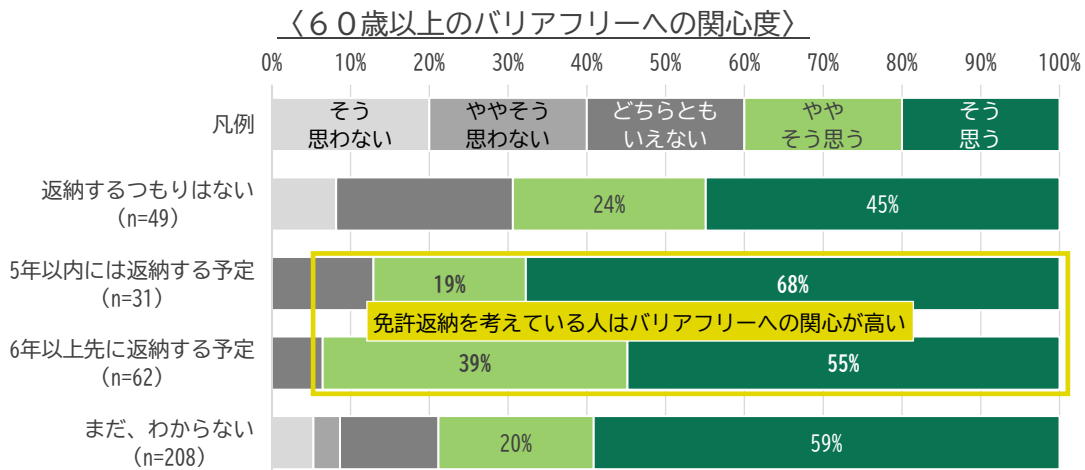
● 岩宿駅周辺での自転車事故の多さ



資料：マッピング群馬 (一部加筆)

- ・ 60 歳以上で、今後 5 年以内に免許の返納を検討している方は、バリアフリー化への関心が高い傾向にあるが、現状では一部の公共交通にしかバリアフリー化に対応しておらず、利用環境の整備が十分とはいえない。

● 免許返納の予定者のバリアフリーへの関心の高さ

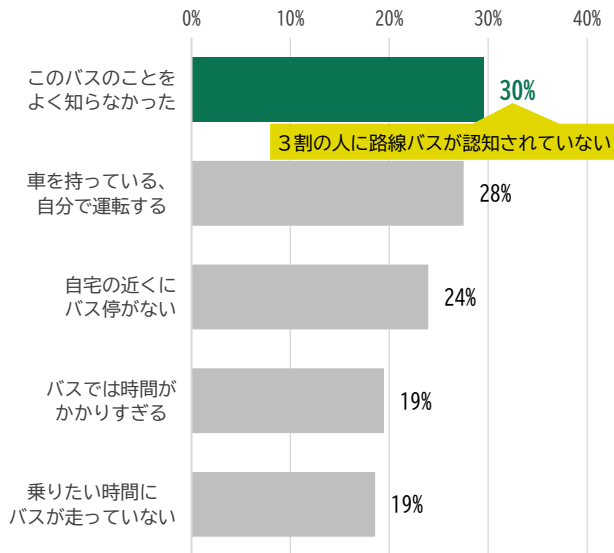


資料：一般アンケート調査結果

- ・ 路線バスが運行されている地域であっても、情報不足や周知活動の不足により、その存在が十分に認識されず、利用意識の醸成が進んでいない。

● 路線バスを知らない市民

〈大間々・笠懸路線バスを利用できるが
利用していない理由（上位5つ）〉



資料：市民アンケート調査結果

● 周知・PRの不足

〈市民・高校生の声（抜粋）〉

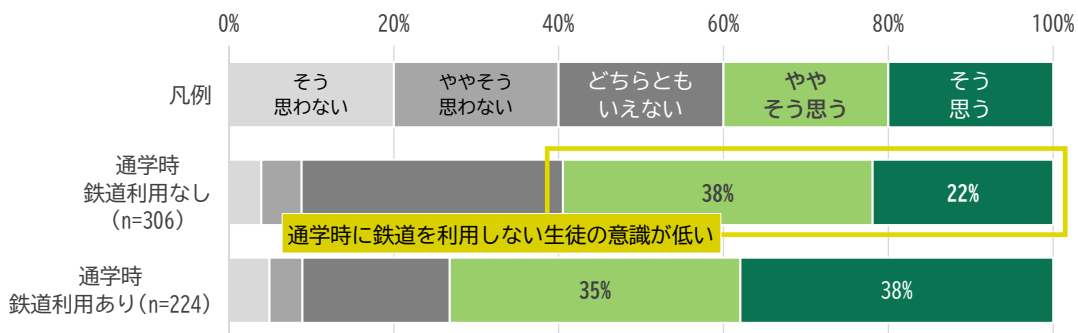
- ・ 公共交通について詳しく知らない人が多く、市としてもっと周知・PRすべきだと考える。
- ・ みどり市のバスがここまで発展していることを知らなかった。若い世代にももっと周知されるよう、SNS やアプリの活用によって変化が期待できると感じた。

資料：市民・高校生アンケート調査結果

- ・ 鉄道を利用しない高校生には鉄道の魅力が十分に伝わっておらず、今後の公共交通の利用促進を妨げる要因となっている。

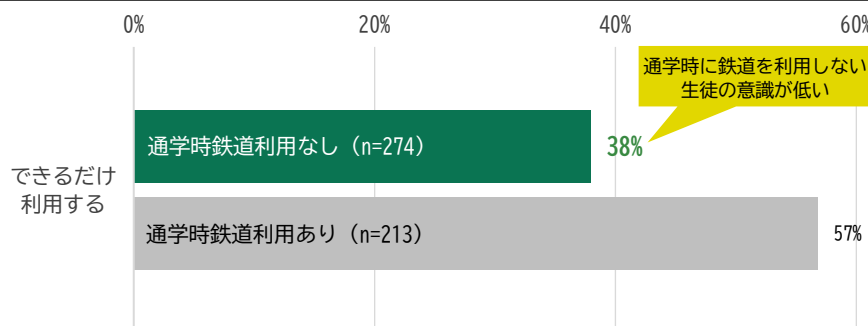
● 通学時に鉄道を利用していない生徒の公共交通への意識の低さ

〈4つの鉄道路線は、まちの発展にとって欠かせないと思うか〉



資料：高校生アンケート調査結果

〈公共交通の維持・発展のため、できるだけ公共交通を利用しようと思うか〉



資料：高校生アンケート調査結果

地域・多様な公共交通が一体となった連携体制の強化

- 市民の多くが自家用車を移動手段として利用していることに伴い、交通渋滞の増加や環境負荷の深刻化が懸念される。

● 渋滞問題に対する意識

〈市民・高校生の声（抜粋）〉

- 岩宿駅前の道路は朝夕の交通量が多く混雑しており、駅周辺が非常に混み合っているため、道路を広げて交通をスムーズにしてほしい。
- 岩宿駅前のロータリーが狭く、特に北口は利用しづらいため、朝の時間帯には交通が集中し、混雑している。

資料：市民・高校生アンケート調査結果

● 環境問題等に対する意識

〈市民・高校生の声（抜粋）〉

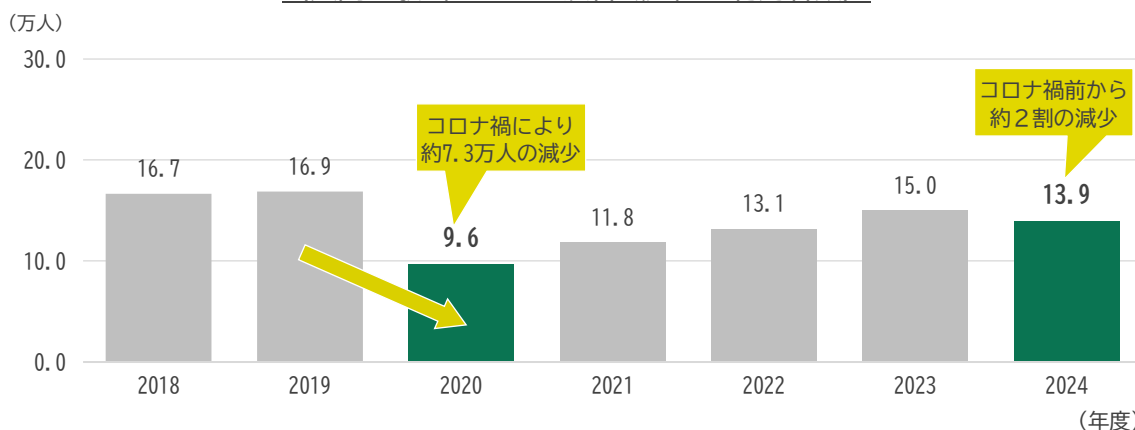
- CO₂排出量の抑制のため、公共交通の拡充が必要。
- 公共交通の利便性が高まれば、高齢者が安心して免許を返納しやすくなり、交通事故の減少にもつながる可能性がある。
- 公共交通の利便性が向上すれば、車を運転できない若者も自由に移動できるようになり、地域の活性化につながる。

資料：市民・高校生アンケート調査結果

- 鉄道、路線バス、「電話でバス」、タクシーは、コロナ禍の影響で利用者が減少し、一事業者単独での取り組みだけでは利用者の確保が困難になっている。

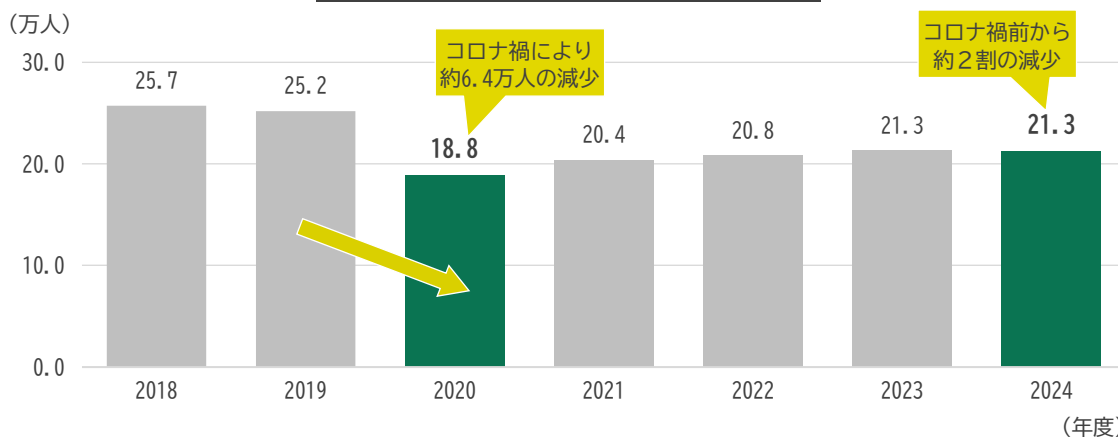
● 鉄道利用者数の減少

〈大間々駅（わたらせ渓谷鐵道）の利用者数〉



資料：わたらせ渓谷鐵道(株)

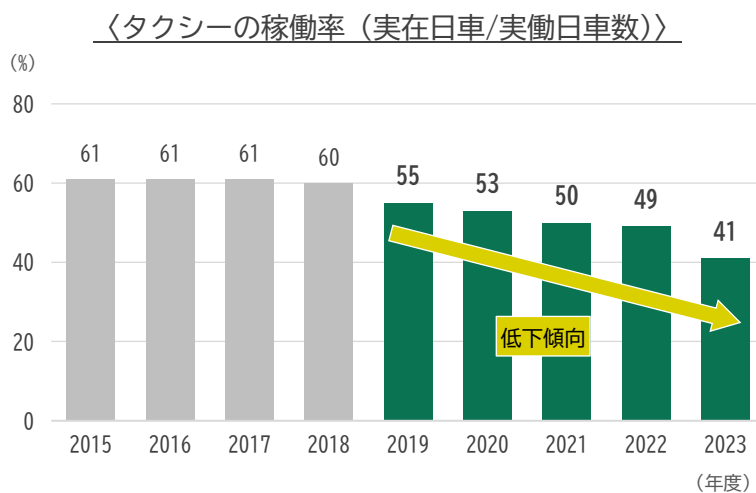
〈赤城駅（上毛電気鐵道）の利用者数〉



資料：上毛電気鐵道(株)

- ・ タクシーをはじめとした交通事業者の人員不足により、今後のサービス水準の低下が懸念される。

● 運転手不足による稼働率の低下



資料：(株) 沼田屋タクシー

● 運転手不足に対する意識

〈事業者ヒアリング結果〉

- ・ 車両はあるが、運転手の高齢化が進み、若年層の担い手が少ないため、人材確保が課題となっている。

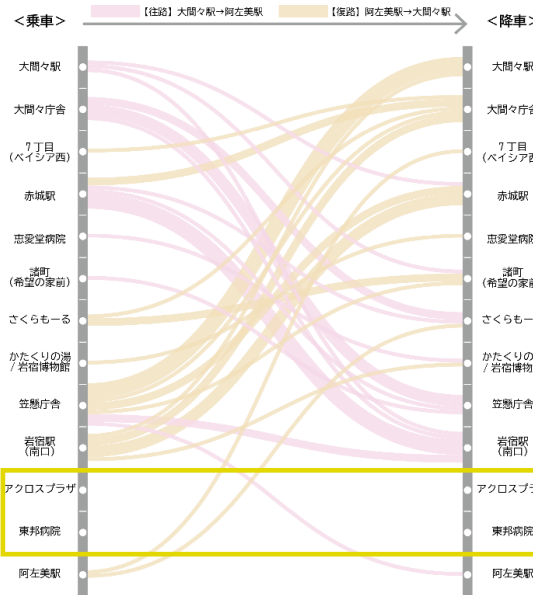
資料：(株) 沼田屋タクシー

笠懸・大間々・東それぞれの地域特性に応じた公共交通システムの構築

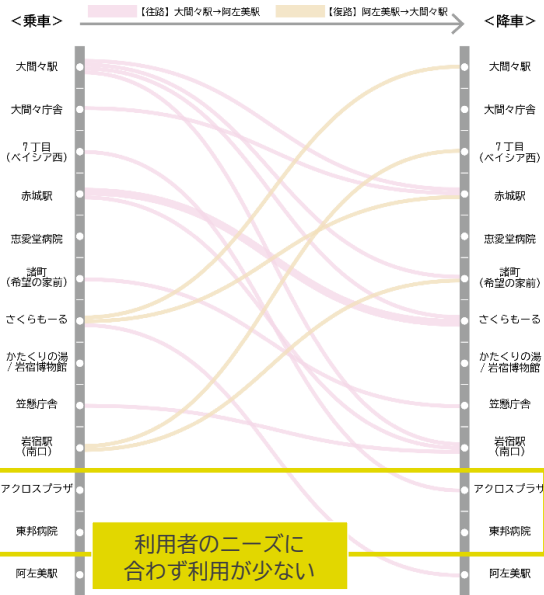
- ・ 利用実態のない路線・バス停が存在しており、利用者のニーズに応じたサービスの提供が提供できておらず、非効率な運行となっている。

●大間々・笠懸路線バスの利用実態のないバス停の存在

〈平日（調査日：2025年1月24日(金)）〉



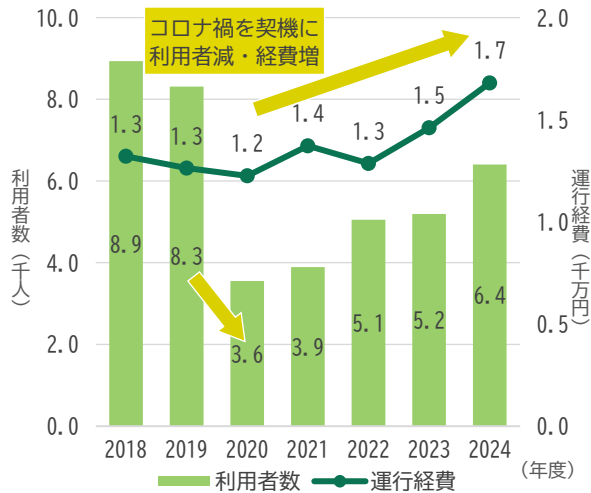
〈休日（調査日：2025年1月26日(日)）〉



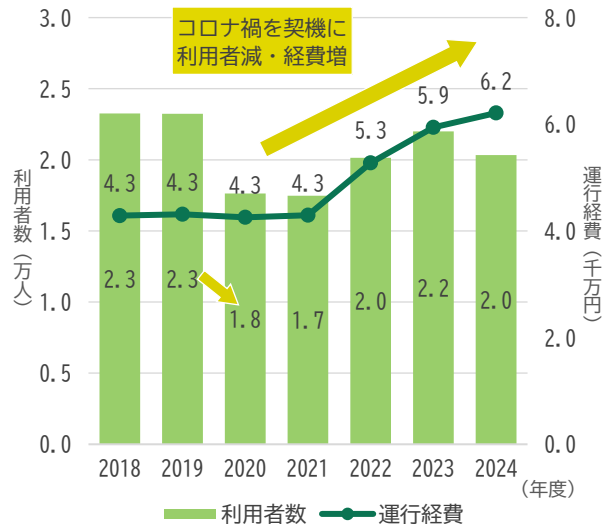
- ・ 東町路線バスや「電話でバス」では、運行経費の増加や利用者が減少しており、サービス水準の低下・持続可能な運行が困難になることが懸念される。

●利用者数の減少・運行経費の増加

〈東町路線バス（全路線）の
利用者・運行経費〉



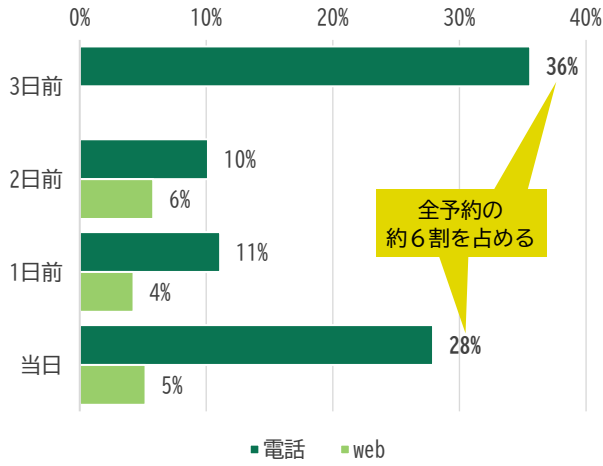
〈「電話でバス」の
利用者数・運行経費〉



- ・ 笠懸町・大間々町では、「電話でバス」を運行しているが、需要の高さから予約が取りづらいう上に、乗り合いが進まず効率的な配車の実現できていない。

●電話予約の多さによるオペレータへの負担増加

〈「電話でバス」の予約方法と予約日
(R6年度)〉



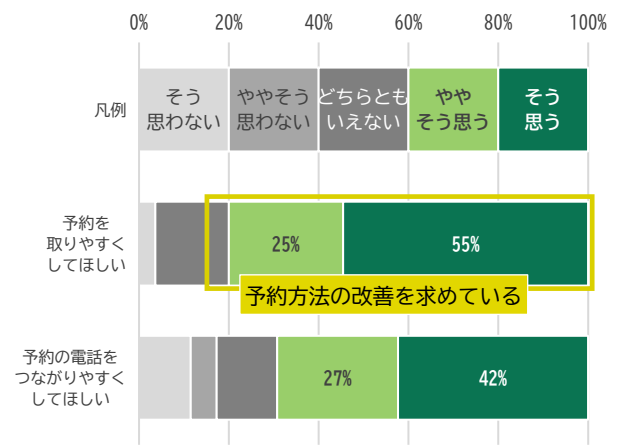
全予約の約6割を占める

資料：みどり市

※web 予約は、2日前から受付

●予約の取りやすさを求める声

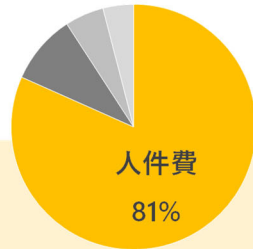
〈「電話でバス」の予約方法で改善してほしい事〉



予約方法の改善を求めている

資料：市民アンケート調査結果

コラム



公共交通を維持するための費用の話。

私たちの移動を支える公共交通を維持していくには多くの費用がかかります。

例えば、現在みどり市で運行しているバスでは、人件費が全体の約8割を占めています。これは、運転手や整備士など、バスを安全に走らせるために欠かせない方々のお給料です。

費用の多くは皆さまに納めていただいている税金から支払われています。税金を無駄にせず、より便利に活用する方法を「みどり市地域公共交通活性化協議会」で検討していきます。

バスがなくなってしまう・・・？

人口減少や人手不足により、地域のバス運行を取り巻く状況は年々厳しくなっています。しかし、バスは通勤・通学、通院や買い物など、生活の基盤を支える重要な役割を担っています。

地域の公共交通を将来へつなげるには、行政の支援や事業者の努力だけでは限界があります。子どもから高齢者まで、誰もが安心して移動できるまちを守るために、今こそ地域全体で「どうすればバスが走り続けられるか」を考えることが大切です。

“いつもは車だけど、今日はバスで行ってみよう”

——そんな小さな選択が、まちの未来を支える第一歩になるかもしれません。